

短報 Short Communication

鳥取県におけるテングコウモリ属2種の初記録
およびヒナコウモリの2例目の記録

岡田珠美¹・岡田 純²・一澤 圭³

¹〒680-0728 八頭郡若桜町春米 氷ノ山自然ふれあい館響の森

²〒690-8504 松江市西川津1060 島根大学生物資源科学部環境科学講座

³〒680-0011 鳥取市東町2-124 鳥取県立博物館

¹E-mail: okada-t@hibikinomori.gr.jp

[受領 Received 7 January 2008 / 受理 Accepted 21 January 2008]

First records of two species of *Murina* and second record of *Vespertilio sinensis* in Tottori Prefecture, Honshu, Japan (Mammalia: Chiroptera: Vespertilionidae)

Tamami OKADA¹, Sumio OKADA² and Kei ICHISAWA³

¹Hibikinomori Museum, Tsukuyone, Wakasa-cho, Tottori, 680-0728 Japan

²Division of Environmental Biology, Shimane University, Matsue 690-8504 Japan

³Tottori Prefectural Museum, 2-124 Higashi-machi, Tottori, 680-0011 Japan

はじめに

岡田・岡田 (2006) は、若桜町氷ノ山山麓の建物から発見されたヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* (= *V. superans*) (ヒナコウモリ科) の死体を鳥取県内初記録として報告している。今回、同じ建物からヒナコウモリが発見された。また、これに隣接する植え込み、および同じ若桜町春米 (つくよね) にある鳥取県立氷ノ山自然ふれあい館響の森 (以下「響の森」とする) の建物外壁から、鳥取県では未記録であったテングコウモリ *Murina hilgendorfi* とコテングコウモリ *Murina ussuriensis* (いずれもヒナコウモリ科) が発見されたので報告する。

なお、学名は、前田 (2005) にしたがった。

発見日時および発見状況

ヒナコウモリ

Vespertilio sinensis Thomas, 1898

2005年11月16日、若桜町春米の食堂 (峠茶屋) の森岡安子氏からコウモリがいるとの連絡が響の森にあった。現地確認したところ、食堂2階の物置部屋の畳の上でうずくまっている個体が確認された (図1)。発見された場所は岡田・岡田 (2006) と同じ部屋の畳の上である。発見個体は生きており、写真撮影に止めた。鳥取県内では今回が2例目の報告である。

テングコウモリ

Murina hilgendorfi (Peters, 1880)

響の森の建物外壁 (外壁の一部がつい立状に突き出した陰) で2005年9月28日に死体が1個体 (図2, 3), 2007年9月12日には同場所で生きたものが1個体発見された (図4)。体毛は灰褐色で腿間膜上面が長い毛で覆われているなどの特徴 (前田, 2005) からテングコウモリと同定された。本種は北海道, 本州, 四国, 九州 (前田, 2005) に分布するが, 中国地方では発見例が比較的少なく, 島根県と山口県で準絶滅危惧種, 広島県で絶滅危惧II類に選定されている (広島県, 2004; 大畑, 2004; 山口県環境生活部自然保護課編, 2002)。鳥取県では本種の確実な報告がなく, 本報告が初記録と思われる [前田 (1994) は本種の分布域に鳥取県も含めているが, 巖城 (1998) はこれを, 確かな記録に基づいたものではないとしている。また, 前田 (1994) の改訂版にあたる前田 (2005) の分布図も中国地方に関しては前回から変わっていないが, 鳥取県からの具体的な採集記録をとまなう報告はその後も出ていないように思われる]。なお, 2005年に発見された個体は剥製化され, 鳥取県立博物館に保管されている。

標本データ: 2005年9月28日発見・収集, 前腕長43.3 mm, 尾長36.9mm, 耳介長14.5mm*, ♂。鳥取県立博物館登録番号 TRPM-AMa-0000003。



図1. ヒナコウモリ (若桜町氷ノ山, 2005年11月16日)



図4. テングコウモリ
(若桜町氷ノ山,
2007年9月12日)



図2. テングコウモリ (鳥取県立博物館標本: TRPM-AMa-0000003, 2005年9月28日若桜町氷ノ山で発見): 頭部



図5. コテングコウモリ (鳥取県立博物館標本: TRPM-AMa-0000004, 2006年10月4日若桜町氷ノ山で発見): 頭部



図3. テングコウモリ (図2と同一個体): 背面



図6. コテングコウモリ (図5と同一個体): 背面

コテングコウモリ

Murina ussuriensis Ognev, 1913

2006年10月4日に響の森外壁の陰（前記テングコウモリと同場所）で死体が1個体発見された（図5, 6）。また2007年8月5日には、前述した峠茶屋周辺で昆虫調査中にアジサイの葉に隠れている1個体が発見された。体毛は茶褐色で腿間膜上面が長い毛で覆われているなどの特徴（前田, 2005）からコテングコウモリと同定された。本種は日本では北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 奄岐に分布し, 中国地方では島根県, 広島県から確認されている。島根県では準絶滅危惧種, 広島県では絶滅危惧Ⅱ類に選定されている（広島県, 2004; 大畑, 2004）。鳥取県では本報告が本種の初記録であると思われる。なお, 2006年に発見された個体は剥製化され, 鳥取県立博物館に保管されている。

標本データ：2006年10月4日発見・収集, 前腕長33.0 mm, 尾長31.0mm*, 耳介長12.5mm*, ♀。鳥取県立博物館登録番号TRPM-AMa-0000004。

今回報告された3種のコウモリは, おもに大木の樹洞などを隠れ家としている樹洞性のコウモリである（前田, 1996）。樹洞性コウモリは森林伐採などにより, 各地で激減していると考えられている（前田, 1996; 佐野, 2005）。3種とも複数個体が発見されていることから, これらの樹洞性コウモリが氷ノ山に広く分布している可能性が出てきた。県内における樹洞性コウモリを初めとするコウモリ類の分布の現状はほとんど分かっておらず, 今後, 氷ノ山を含め県内広範囲でのコウモリ類の生息調査が望まれる。なお, 今回記録された3種は, 環境省のレッドリストの絶滅危惧Ⅱ類（VU）に選定されていたが（環境省, 2002）, 2007年に大幅な見直しが行われ, テングコウモリは同ランクの絶滅危惧Ⅱ類, ヒナコウモリとコテングコウモリはランク外となっている（環境省, 2007）。

謝 辞

若桜町春米のヒナコウモリの生息情報をくださった

森岡安子氏に心から御礼申し上げます。

引用文献

- 広島県（2004） 広島県レッドデータブック見直し検討会（編） 改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生動物ーレッドデータブック2003ー. 広島県, 515pp.
- 巖城 隆（1998） 鳥取県の哺乳類に関する文献目録. 鳥取生物 31: 14-20.
- 環境省（2002） 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生動物ーレッドデータブックーⅠ. 哺乳類. 財団法人自然環境研究センター, 177pp.
- 環境省（2007） 哺乳類, 汽水・淡水魚, 昆虫類, 貝類, 植物Ⅰ及びⅡのレッドリストの見直しについて. <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8648>. 2007年11月20日確認.
- 前田喜四雄（1994） コウモリ目. In: 日本の哺乳類.（財団法人自然環境研究センター 編）, pp.38-70. 東海大学出版会.
- 前田喜四雄（1996） 樹洞性コウモリ. In: 日本動物大百科1 哺乳類Ⅰ.（川道武男 編）, pp. 48-50. 平凡社.
- 前田喜四雄（2005） 翼手目. In: 日本の哺乳類 [改訂版].（財団法人自然環境研究センター 編）, pp.25-64. 東海大学出版会.
- 大畑純二（2004） 哺乳類. In: 改訂 しまねレッドデータブック ～島根県の絶滅のおそれのある野生動物～.（財団法人ホシザキグリーン財団 編）, p25. 島根県環境生活部 景観自然課.
- 岡田珠美・岡田 純（2006） 氷ノ山におけるヒナコウモリの初記録. 山陰自然史研究 2: 39-40.
- 佐野 明（2005） コウモリ保護の現状. In: コウモリ識別ハンドブック.（コウモリの会 編）, pp.60-61. 文一総合出版.
- 山口県環境生活部自然保護課（編） レッドデータブックやまぐち. 山口県の絶滅のおそれのある野生動物. 山口県環境生活部自然保護課, 513pp.

*剥製化後に計測した。